

編集後記

いわゆる医療費問題をめぐって新聞 雑誌 ラジオ テレビ等に各界の意見が出た。それらを見聞して先ず感ずる事は 医療にたずさわっていない人 例えば政治家 役人 評論家等は やはり医療制度に就てよく知っていないと云う事である。厚生大臣と云うものも大体に素人であつて 大臣になつてから医療問題に接触するのであり 政党人や評論家等は 政治や経済には精しいであろうが 医療の実態を知っているわけがない。医療問題には昔からの経緯があり 内容も極めてむずかしく 複雑なものである。普段に関係のない者が俄かに出て来て意見を述べても それがピントはずれであるのは当然であろう。

次に街の声 世論と云うものを聞くと その約9割までが今回の医師会の言動を攻撃している。その多くは「医は仁術」の観念を持つていて 医者には人命をあずかる貴重な任務があり一斉休診の如きは人道に反すると云う。この人達は安い医療費によつて十分な医療を 日曜でも夜中にでも受けようと考えている。それは医者に「医は仁術」を押しつけ 自分等の都合のよい事ばかりを云つているのである。医者の仕事が貴重なものであると云うのであれば 医者はそれだけ厚く待遇せられるべきである。これらの人も医療の実態を勿論知らずに 虫のよい事ばかりを云つているのである。医者は世間に対して医療と云う事をもつと平易に説明 宣伝する事が必要である。

次に医療は病人と実地医家だけの問題ではない。医学の研究や医師の養成と密接に関係している。そこで文部省 大学 学会等とも深い関連があるのである。厚生省 医師会 政党 健保連等は種々の意見を出しているが 大学からは今回の問題に関して何らの意見も出なかつたように思う。これはどうした事であろうか。大学には意見はないのか。他人に委せて置けばよいのか。わが国将来の医療制度を如何にするべきかを考える事は 大学にとつて大きな責任ではなからうか。現在の健康保険制度が極めて不合理なものになつているのは 大学が云うべき時に沈黙していた事も大きな原因になつている。その過誤を再び繰り返してはならない(昭和36年3月)

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アートを、図表、写真は実費を申受ける。別再20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院京都大学病院泌尿器科紀要編集部。